

豊橋市教育委員会定例会会議録

令和6年9月25日 開催

署名者

豊橋市教育委員会

山西正泰 教育長

内浦有美 委員

中島美奈子 委員

豊橋市教育委員会

令和6年9月25日（水）午後3時00分、豊橋市教育委員会定例会を教育委員会室において開催し委員を参集す。

出席委員

山西正泰 教育長、内浦有美 委員、渡辺嘉郎 委員、
中島美奈子 委員、西島 豊 委員

説明のため出席した職員

豊橋市教育委員会事務局

石川和志 教育部長

鈴木大介 教育政策課長

鈴木秀典 学校教育課長

加藤友治 教育会館長

若子尚弘 保健給食課長

松井清和 生涯学習課長

岡田亘世 美術博物館長

吉川博章 科学教育センター長

三浦正雄 自然史博物館主幹

坂口錦也 図書館長

議 事 日 程

8月定例会会議録の承認

1 議案

議案第32号 教育委員会の権限に属する事務の点検評価結果の概要について

2 報告事項

(1) 令和6年9月市議会定例会における一般質問等について

3 定例会の日程等について

(教育長)

それでは、ただ今から、豊橋市教育委員会 9 月定例会を開催します。

最初に、会議録署名者の決定をしたいと思います。教育委員会会議規則第 2 3 条により、私から指名させていただきます。

今回は、内浦委員と中島委員にお願いしたいと思いますが、ただ今の指名にご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

(教育長)

ご異議もありませんので、そのように決定いたしました。

それでは、議事日程に沿って進めてまいりたいと思います。

「8 月定例会の会議録の承認」ですが、これについて何かご意見はございませんか。

(「特になし」の声あり)

(教育長)

特にご意見、ご質問もありませんので、この内容により公開して参ります。

それでは、「日程第 1 議案」に移りたいと思います。

議案第 3 2 号「教育委員会の権限に属する事務の点検評価結果の概要について」を事務局から説明してください。

■教育政策課長 説明

(教育長)

ただ今の説明についてご意見、ご質問などはございませんか。

(渡辺委員)

いつ議長へ提出しますか。

(教育政策課長)

本日承認いただければ、明日、9 月 2 6 日に提出したいと思います。

(渡辺委員)

提出後、どのように公表しますか。

(教育政策課長)

豊橋市ホームページで公表します。

(渡辺委員)

行政評価は、他市でも行われていると思いますが、評価手法に違いはありますか。

(教育政策課長)

行政評価は基本的にすべての自治体で行われていますが、評価の仕方は自治体ごとで違いがあると思います。本市では、事務事業評価という形で事業の積み上げ部分も行政評価に取り入れているため、より詳細にまとめているという特徴があります。また客観的な指標により公正な評価となるよう心掛けています。

(西島委員)

五か年の数値が出そろい、事業ごとで傾向が見えてきたと思います。令和7年度が目標値の達成年度となっていますが、停滞している項目に対し、今後どういった対応をしていきますか。

(教育政策課長)

第2次豊橋市教育振興基本計画は、第6次豊橋市総合計画と連動して策定しています。来年度の第6次豊橋市総合計画の改定に合わせて、どういった指標・目標値にすべきか改めて検証したいと思っています。

(西島委員)

現状の数値と目標値に大きな乖離がある場合は、現状のまま進めてよいか、方針を抜本的に変えるべきか、議論が必要になってくるかもしれません。

(内浦委員)

各目標における数値を変えるべきか、数値目標以外の指標にすべきかななどを教育委員で議論し、検討する必要を感じています。

(教育長)

指標の目標値はどのように定めたものですか。

(教育政策課長)

第2次豊橋市教育振興基本計画は、第6次豊橋市総合計画と連動した指標の目標値が用いられています。来年度の第6次豊橋市総合計画の中間見直しでは、大幅な変更はないと思います。ただ、意見は挙げていくつもりです。

(西島委員)

目標値をどうしても達成できないからという理由で変更するのではなく、あくまで、現状の実態に合っていない項目について検討する必要があります。

指標を変えられないのであれば、市としての方向性を示すことができる新たな指標を加えることで、元の指標を達成せずとも、事業の正当性の証明になると思います。

(内浦委員)

自由で豊かな発想の指標設定をすることで、今まで以上の成果が期待できると思います。

(渡辺委員)

厳しく評価することが目的ではなく、効果的な教育行政の推進を図ることが目的であるということを意識して策定する必要があります。

(教育長)

ほかにご意見、ご質問はございませんか。

特にないようですので、議案第32号は原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

(教育長)

ご異議もありませんので、議案第32号は原案のとおり決定いたしました。

それでは、次に、「日程第2 報告事項」に移ります。

報告事項(1)「令和6年9月市議会定例会における一般質問等について」

を事務局から説明してください。

■教育政策課長 説明

(教育長)

ただ今の説明についてご意見、ご質問などはございませんか。

(渡辺委員)

川原議員のクーリングシェルターの指定状況と考え方について、冷房の効いた場所を提供するということですか。

(生涯学習課長)

クーリングシェルターとは、環境部の事業で、市が指定する誰でも立ち寄れて涼むことができる場所のことです。生涯学習センターは22館のうち21館がクーリングシェルターに指定されています。指定されていない東陽生涯学習センターの休憩できるスペースは建物の構造上、冷気が留まらないため指定されていません。少しでも涼しくなるよう、ほかの手段を講じていきたいと思えます。

(中島委員)

諸井議員の仕事と子育ての両立ができる環境の整備について、放課後児童クラブと放課後デイサービスを併用する場合、費用はそれぞれからかかりますか。

(生涯学習課長)

放課後等デイサービスは福祉の分野となっており、それぞれ別で利用料をいただいております。

(渡辺委員)

斎藤議員の愛知県立夜間中学について、学童期の児童が入学する場合、就学援助の対象になりますか。

(学校教育課長)

そもそも夜間中学の対象者は15歳以上となるため、学童期は対象外となっています。

(中島委員)

長坂議員の「認知機能が弱い」子への対応について、「認知機能が弱い」とはどういった状態ですか。

(学校教育課長)

いわゆる境界知能の子どものことを表しています。

(中島委員)

教育がスムーズに入らない子どもへの教育をどうするかは、乳幼児期から繋がっている問題だと思います。解決には、他職との連携も重要だと思います。

(渡辺委員)

井上議員のフェーズフリーの考えを踏まえた取り組みの現状と課題について、小中学校において、フェーズフリーという言葉を使わずとも、その考えを踏まえた取り組みをすでに行っているということですか。

(学校教育課長)

現状は取り入れられておりません。全国には注力して取り組んでいる自治体もあるため、本市においても推進していきたいと思います。

(内浦委員)

先日、松山小学校で防災訓練が行われましたが、松山小学校に通う児童と保護者だけでなく、地域の方々も参加しました。小学校が核となる地域連携の良い事例だと感じました。

(渡辺委員)

医師会もこういった訓練に応急救護所に係る内容で参加・協力をしています。

(教育長)

フェーズフリーの考え方を教育課程に取り入れている事例として、鳴門市では算数の速度の授業において、津波の速度を計算することで、津波の速さを実感し、災害の恐ろしさを身をもって理解することに繋がっています。このように非常時のことを平時の学習に取り入れています。

(渡辺委員)

給食費無償化に関する陳情について、今後はどういった方針で進めていきますか。

(保健給食課長)

保護者負担の軽減は、子育てしやすい街づくりのために必要な取り組みだと思っておりますので引き続き取り組んでいきたいと思っております。現状は半額負担ですが、負担割合はその都度財源を考慮しながらの決定となります。

(渡辺委員)

物価高騰への対応はどうされますか。

(保健給食課長)

昨年までは物価高騰対策の位置づけで補助していましたが、物価上昇は一時的なものではないということから、国の動向をみながら、徴収する給食費についても検討する必要があると感じています。ただ、保護者の負担をできる限り少なくしたいという思いはあります。

(教育長)

給食費無償化を実施している自治体の割合はどれくらいですか。

(保健給食課長)

全国の自治体のうち、約4割が一部補助など何らかの対策をしており、約3割が条件を付けず完全に無償化しています。

(中島委員)

定数改善計画の早期策定に関する陳情について、私が以前、議論を交わした若手教員たちは、児童数や複数担任についてそれぞれ異なる意見を持っていましたし、一長一短があるため、非常に難しい問題だと感じています。

(渡辺委員)

教員のなり手が多ければこういった問題も解決できると思います。

(教育長)

ほかにご意見、ご質問はございませんか。

それでは、次に「日程第3 定例会の日程等について」です。事務局から説明をしてください。

■教育政策課長 説明

(教育長)

ただ今の説明やその他にご意見、ご質問はございませんか。

(中島委員)

園児が小学校の図書室を利用できる機会があり、園児は大変魅力を感じていました。学校特有の施設を通して学校を楽しみにしてもらうことが可能だと思いましたので、児童との交流だけでなく、こういった幼保小の連携を拡げていただければと思います。

(学校教育課長)

不登校の低学年化のうち、幼稚園・保育園と小学校との違いに戸惑って発生している場合に対して有効だと思いますので、参考にしたいと思います。

(教育長)

ほかがないようでしたら、以上をもちまして、本日の予定を終了いたします。ありがとうございました。

午後 4 時 0 0 分 閉会

豊橋市教育委員会教育長

委 員

委 員